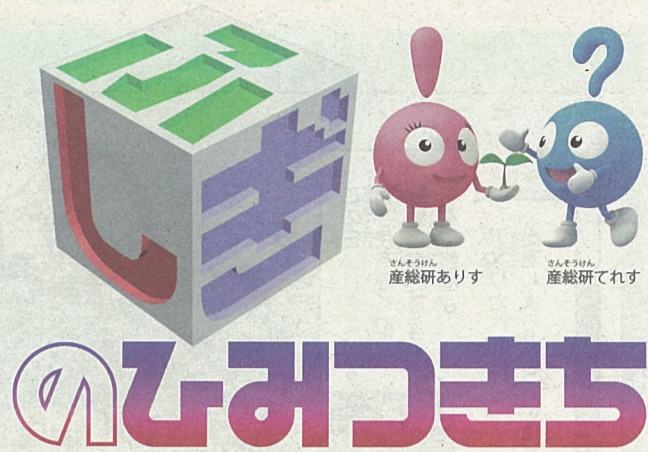


今回のテーマ

すべての人に きれいな水を



No.019

どうすれば世界中のみんなが使えるようになるのだろう

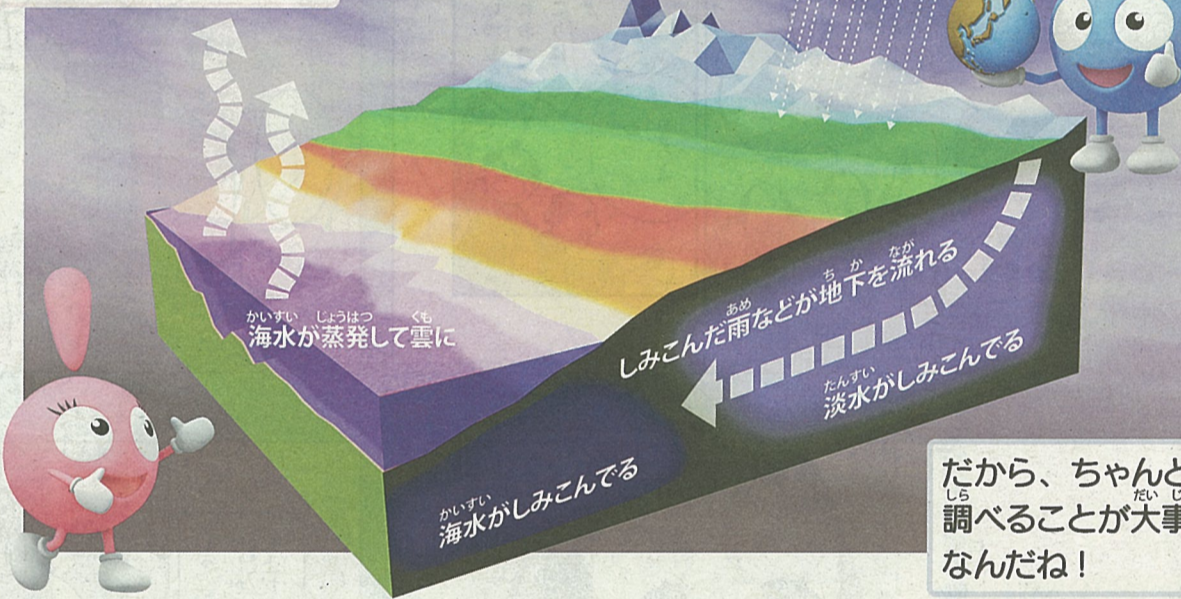
新聞やテレビなどのニュースではSDGs(持続可能な開発目標)という言葉がたびたび出てきます。これは、将来にわたって持続できる、よりよい世界をつくるために、国連に加盟する193か国が2030年までに達成を目指している目標のことです。

◇4人に1人は……

17個ある目標の6番目に、「安全な水とトイレを世界中に」があります。日本では、いつでも水道からキレイな水が出ます。だけど世界で暮らす人々の4人に1人は、安全な飲み水さえ手に入らず、衛生的なトイレを使うこともできないのです。

その原因は、地球上には地下水のもととなる雨が多い地域と、ほとんど降らない地域があるためです。雨が少ない地域にも、砂漠の中のオアシスのように、水が湧き出る場所があります。このような水は、水の循環

地下水は見えないからどこにどれだけあるかわからないよね?



環から切り離され、地下にたまった古い地下水である場合もあり、使っていくと将来は枯れてしまいます。また、降った雨のうち、地下水となるのは20~30%と言われ、たくさん雨が降る地域であっても、使いすぎると、やっぱり枯れてしまいます。

◇国際ルールを作ろう

将来にわたって持続可能な

世界をつくっていくためには、きれいな地下水がどこにどれだけあるのか、そして、どのくらい使うことができるのかを正確に理解することが必要です。また、地下水を使う上で一番の問題は、地下水が豊富に存在する場所がかたよっていることです。

そのため、産業技術総合研究所では、たくさんの井戸を

まわって地下水を集め、水質を調べるとともに、地下を掘って得られた地質の情報などから、地下水の量や流れを「見える化」する研究をしています。

地下水をどのように管理していくのか、まだ明確なルールがありません。地下水の正確な理解は、国際的なルールを作る上でも重要なことなのです。

だから、ちゃんと調べるのが大事なんだね!

今日の先生



井川 怜哉さん

「地下水の博士です。小学生時代から運動と自然が大好き。今も野外での調査が大好きです！」

産業技術総合研究所(産総研)地圏資源環境研究部門。専門は、地下水の量や動きを調べる研究。出身小学校は兵庫県西宮市立香櫨園小。

さんそうけんって?

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)

